

平成29年度 加齢化支援研修会

主催 北海道知的障がい者支援者協会

11月27日に札幌かでの2.7で行われた、加齢化支援研修会に参加してきました。

今年で30年のはまなす園では、最高年齢でも57歳ですが、知的協会の調査などでは、知的障害の方は実年齢+10歳～15歳として考えたほうが良いという報告や本人たちから体の不調なども伝えることがこんな方々が多いので、色々なことを学んでいかななくてはと改めて思われる研修会でした。

研修会は終日行われ、午前中の部は、社会福祉法人同愛会の理事長高山氏から、人間学として昨年の津久井やまゆり園の事件のことにも触れながら高齢期の支援に必要な哲学を話されており、最近でもとある法人で指導員室を中心に放射状のユニットケアのGH?ができ利用者はその中でごろごろしているだけのところがある、その状態が人間らしい生活なのか?高齢となってもそれぞれが活躍(やりがい)できることを探す事や多様性に寄り添うことの大切さを話されていた。

午後は、3法人からの実践報告と分科会になっていた。3法人の高齢への対応は、それぞれ手探りで始まったものと言ってはいたが、利用者に寄り添い、慣れ親しんだ所でどう過ごしてもらおうかという努力がとても良く見えた内容だった。

分科会は、嚥下障害とメカニズムの話を書くことにした。嚥下の話は、食べることを科学的に見たことが恥ずかしながら初めてで、ぜひ施設の研修でも来てほしいとおもいました。

嚥下の状態を説明した動画です。

https://www.youtube.com/watch?v=foC05_MqkOY